Shimadian File #31

しまだ人

子どもは地域の宝。厳しさから思いやりの心を育む――

通学合宿事業「湯日っ子ふれあいスクール」の宿泊先として湯日小学校の児童を受け入れること8年。住職である小松さんは、市内で唯一、公共施設以外の合宿先として、地域ぐるみの活動に貢献しています。

【宿泊は子どもたちの希望で】

「お寺に泊まってみたい」と、小松さんにお願いしたのは「寺スクール」に参加した子どもたち。寺スクールは、学校の週5日制の実施に合わせ「地域全体で子どもたちを見守り、成長を育んでいこう」という目的で、平成14年に開校しました。

「もともと人の少ない地域で、隣近所と家族のようなお付き合いをしているので、少しでも長く友達と一緒にいたかったんでしょう」と小松さん。「北海道から引っ越してきたばかりの私たち家族には、湯日地区の温かで家庭的な環境は喜ばしいものでした。また、子どもにとっても、仲の良い友達を作る場になりました」と、当時をふり返ります。

その後、地域への感謝と子どもたちのつながりの大切さを考え、通学合宿事業の宿泊先としても、お寺を提供することに決めたそうです。

養勝寺（ようしょうじ）住職
小松（こまつ） 周翁（しゅうおう）さん（湯日）

【子は親の「鏡」】

お寺の宿泊体験では、坐禅・朝食の準備・お堂や境内の掃除などの修行のほか、作法も教えています。

「あいさつをする。履き物を揃える。物や友達を大切にする。この3つが、お寺に泊まりする際の、子どもたちとの約束で、みんな素直に聞いてくれますよ。どの子も最初からきちんとできる何かを持っています。ご家庭でのしつけやお父さんお母さんの行動を見て、身に付けたんでしょう。感心することが多々あります。子は親の『鏡』そのものなんです」と、宿泊中の様子を教えてくれました。

【就任式で感じた成長】

先日、小松さんは、お寺の住職を受け継ぐ就任式を行いました。この式では、地元の子どもたちに囲まれてお寺に入ってくることが、しきたりだそうです。

「当日は、中学生たちも駆けつけてくれたんです。しかも、彼らの思いつきで、突然『わっしょい、わっしょい』の掛け声までしてくれて…。ご近所に響き渡る声で、さすがに照れましたが、とても嬉しかったです」と、恥ずかしそうに話してくれました。

寺スクールや通学合宿は、保護者や地域の協力で成り立っています。「湯日地区では、地域全体で子どもたちを支えてあげる環境が根付いています。きっと、思いやりの心を持った大人になってくれることでしょう」と、優しく語ってくれました。

座禅を指導する様子

発行／編集 島田市企画部広報課
〒427-8501 島田市中央町1番の1
☎ 0547-36-7118

「広報しまだ」は、環境にやさしい植物油100%のインクと、資源リサイクル推進のため再生紙を使用しています。
http://www.city.shimada.shizuoka.jp